

# 翔たけ

題字 小笠原 孝

第28号

令和2年10月1日

発行

一般財団法人  
小笠原アカデミー  
教育振興財団

理事長

小笠原 孝

〈事務局〉

〒040-0016

函館市海岸町9-18

TEL 0138-84-5396

FAX 0138-84-5397



いぶりガッコ

一般社団法人 函館文化会

会長 金山正智

小中学生の全国学力テストの都道府県別結果が公表されたのは平成十九年である。県単位で学力ランキングが示されるのは我が国では初めてとあって、早くから教育関係者の注目を集めていた。発表された内容は、教科、総合と分けられており、秋田県、福井県、石川県が小中学校とも上位県として並んでいた。さっそく北海道をさがしたが、残念ながら最下位のところにひっそりと納まっていた。標準化された学力テストの実施は、子供たちの教育水準を維持し向上させるうえで大切なものであることは承知はしていたが、いざその結果が都道府県の順位で示される、しかも北海道の成績が芳しくないとなると、心穏やかというわけにはいかない。

その後十年を経たが、上位に並ぶ県の顔ぶれは秋田県を筆頭に、ほとんど変わっていない。実は、このことは驚くべきことである。もともと、日本の学校は、国の定めた基準に従

い、学校施設、学習カリキュラム、教師によって教育活動が行われている。したがって、基本的には成績に大きな差異が出るはずがない。外国のテスト結果と比べるとは訳が違っているのである。それに、学力テストは代表選手の比較ではない。すべての子供たちを対象に行われるわけであるから、一部の子供をシゴイたところで結果が劇的に変わるはずがない。そんな中で上位県を長く維持することは至難の業である。中でも秋田県は三年連続一位という時期もあって、「秋田の教育」が全国から注目を浴びた。

伴って、全国各地から秋田県への視察が殺到した。秋田県教委の知人によれば、仕事も手につかない状況であったという。視察者の多くは、

秋田が、県を挙げて特別な学習指導に取り組んでいると思ひこんでいるものが多く、なんとしてもその秘密を探り取ろうと、質問も過熱気味であったと嘆く。

視察に対応する秋田県側の説明は「特に変わったことはしていません」に終始していない。子供個々へのアプローチを工夫することやスキルの重視、伴う教師の研修体制などに見るべきもの、学ぶべきものは多いが、しかし、いずれもがすでに全国各地で様々試みが行われていることである。目新しいもの、斬新な方策があるわけではない。結局、視察者は、「秋田の教育的熱意には感動した」とは言いながらも「秋田県が、テスト上位県を保持している学習指導上の具体的な理由を見出すことは難しい」という結論にならざるを得なかった。函館でも、秋田の現役の教員を招き、秋田の教育の秘密を捕らえようとしたが、芳しい結果は得られなかったと聞く。

こうした中、市民憲章全国大会が秋田県で開催された。その開会式で、佐竹知事が挨拶に立ち、話題の全国学力テストで秋田が常に上位にいることについて触れた。知事は、学校の努力を是とし誇りとしながらも、県として特別に変ったことをしているわけではない。

「いぶりガッコで親父が機嫌よく酒を飲み、子供が元気に遊ぶ」これに尽きると、にこやかに語った。笑いに紛らわしているように見えるが、知事の公の言葉がその場の思い付きで出されたものであるはずがない。「地域の文化を大切に、家庭が円満で、子供が己を尽くす」ことで、子供たちの学力は確実なものになっていく、そういつているのである。勿論、知事の眼目は「いぶりガッコ」にある。知事は、それ以上の言葉は加えなかった。が、秋田がこれまで培ってきた、学ぶことを大切にしている、確実に子どもたちに伝わってきた、そう続けたかったのではなからうか。学習の成果は、勿論、直接指導に当たる学校にあることは十分承知しているが、秋田の歴史や文化、伝統、とりわけ、教育を大切なものとして守り育ててきた秋田の風土、県民性こそが、今、県内の学校を支える役目を果たしている、そう言いたかったに違いない。

佐竹知事が、田佐竹藩のお殿様の末裔であられるとおききしたが、そのこともなにかうれしくて、印象深く話をお聞きした記憶がある。

小笠原アカデミー教育振興財団が、長年、函館の子供たちの教育を支え、支援を続けてきたその識見と力量に敬意を表し、今後のご発展をお祈り申し上げます。



## 学校図書 の 充実 を 目的 と する ( 書籍 ・ 書 架 一 式 を 5 校 へ 贈 呈 )



●小笠原孝理事長より生徒に向けて、図書に親しむことが大事と挨拶があり、その後、生徒代表より謝辞が述べられました。

### 贈呈式〈令和元年9月18日〉港中学校に於いて

《出席者》 贈呈先学校より、(生徒会・児童会)代表役員

函館市立港中学校	校長	長谷川 秀雄
函館市立北中学校	校長	滝澤 智子
北斗市立荻野小学校	校長	西田 直
七飯町立大中山小学校	校長	白石 眞嗣

### 推 薦

函館市教育委員会・渡島教育局(北斗市・七飯町)

北海道教育庁渡島教育局	次長	宇美 敏弘
函館市教育委員会学校教育課	課長	小笠原 学
北斗市教育委員会	教育長	水田 裕
七飯町教育委員会	教育長	興田 敏樹

### 《冷風扇・市内小中高64校に寄贈》

新型コロナウイルス感染拡大の影響で学校の夏休み期間が短縮され、児童・生徒達が夏に学校で過ごす時間が増えることが予想されることから、函館市から、冷房と換気機能を持つ冷風扇の寄贈要望がありました。

一般財団法人小笠原アカデミー教育振興財団は創立40周年となり記念事業の一環として(約100万円相当)快適な環境の学校のため

工藤壽樹市長に寄贈・市長から感謝状が贈られる。

令和2年7月14日



工藤壽樹市長・小笠原孝理事長・小笠原勇人常務理事

### 《亀田交流プラザへ卓球台(3台)寄贈》

今年4月にオープンした函館市亀田交流プラザを利用する児童向けに体育向上・用具の充足を目的とした卓球台3台を寄贈した。函館卓球協会は創立100周年を迎えるにあたり、小笠原勇人常務理事(現会長)・小笠原孝理事長(元、北海道卓球連盟会長)と、深い関わりと合わせて(一財)小笠原アカデミー教育振興財団の創立40周年記念事業として

函館市教育委員会・辻 俊行教育長に目録にて贈呈した。

令和2年7月6日



小笠原孝理事長・辻 俊行教育長・小笠原勇人常務理事(函館卓球協会会長)

一般財団法人 小笠原アカデミー教育振興財団  
**設立40周年・(新)第9期 定時総会**



設立40周年 (新)第9期 定時総会 令和2年7月17日 於いて:五島軒本店



理事長 小笠原 孝

一般財団法人 小笠原アカデミー教育振興財団  
**理事長 小笠原 孝 常務理事 小笠原 勇人**

設立 昭和55年 小笠原アカデミー奨学財団 奨学金貸与事業  
 平成24年 (財)小笠原アカデミー教育振興財団に名称を改め 教育振興機関への助成金制度新設

**諸君の可能性を咲かせよう**

- 向学心に燃える若人へ奨学金貸与(大学・短大・専門学校・高校) 令和2年で総数は201名
- 教育の振興機関に助成金 総数・38団体へ(書籍・書架一式贈呈・大会出場遠征費用・開催費用等)



常務理事 小笠原勇人



理事 小笠原 弘



理事 野又 肇



理事 安高 達



理事 橋本 守



理事 川内谷 健三郎



理事 半野利明



理事 竹内 健



評議員 小笠原 孝正



評議員 齊藤 良昭



評議員 近野 功



評議員 庄司 隆枝



評議員 羽根田 茂信



評議員 野村 辰男



評議員 成田 泰



評議員 野口 博敏



監事 齊藤 一雄



監事 村田 亮二

# 一般財団法人 小笠原アカデミー教育振興財団



奨学金貸与で学生に励ましの言葉を話される

**小笠原 勇人** 常務理事

令和2年度6月現在・奨学生総数201名となる  
助成金は38団体に贈呈(書籍・書架一式は24校)

〔昭和55年設立〕株式会社テーオー小笠原(1950～2017)の創業者、故、小笠原亀吉翁の意志でもあった青少年の育英「地域社会・経済の発展を担う人づくり」を具現化するために、小笠原亀吉翁の遺産の一部を基金として後継者が小笠原アカデミー財団を設立いたしました。

初代理事長は、(故、小笠原金悦)二代目理事長は小笠原孝となり、今日まで数多くの学生に奨学金を貸与して参りました。利用された学生達は、修学の上、教育者・指導者の道、又社会の第一線で活躍される道に進んでおられます。

その後、基金の増額として、小笠原孝夫人(故、小笠原幸子)の遺産の一部と、小笠原理事長個人の(株式、持株)の寄贈等によって更なる充実を計りました。平成24年には一般財団法人小笠原アカデミー教育振興財団に名称を改め、新たに教育機関等への助成金を加えまして、一段と社会貢献に努めております。

## 諸君の可能性を咲かせよう

### 向学心に燃える若人へ奨学金 奨学生の募集要項

#### 【資格】

- ・原則として、道南地方の住民の子女であること。
- ・大学又は大学院、専門学校又は専修学校、高等学校に在学すること。
- ・向学心に富み、かつ修業の見込みがあること。
- ・経済的な理由により、就学困難な事情があること。
- ・将来、国家及び社会に役立つと認められる者。

#### 【貸与額(月額)】

- ・大学又は大学院 25,000円
- ・専門学校又は専修学校、短大 20,000円
- ・高等学校 15,000円
- ※奨学金は原則として、6ヶ月分を一括貸与する。(年2回)

#### 【返還】

- ・奨学金の貸与が終了した日から1年を経過した日以後、貸与を受けた年数の3倍の期間内に返還すること。
- ・返還方法は年賦、半年賦、月賦、その他の方法による。

#### 【申込方法】

- ・所定の用紙(在学学校または財団事務局に申請)に必要事項を記載し、必要とされる書類を添付の上、在学学校を通じて申し込む。

申込期間 例年:4月1日～5月末日まで

### 教育の振興機関に助成金 教育機関等への助成要項

#### 【助成対象】

- ・学校等の教育機関及び地域社会の教育の振興に関わる機関。

#### 【助成額】

- ・助成額は1案件につき事業費の50%とし、上限を20万円とする。

#### 【申請書】

- ・申請書の様式は特に問わないが、下記事項を明記のこと。
- 1、事業名称・代表者名
- 2、事業及び費用の概要・収支計画書
- 3、行政からの推薦書(函館市教育委員会・渡島教育局)

#### 【例1】

- 〇小学校□□部 全国大会(東京)へ出場が決まりましたので、旅費などの一部を助成していただきたく。

#### 【例2】

- 〇中学校□□研究大会開催における費用の一部を助成していただきたく。

#### 【例3】

- 〇教育団体の□□教材の充実を計るための費用の一部を助成していただきたく。

申請は随時受付(但し、理事会の承認後の決定となります。)

■詳しいお問い合わせは当財団事務局(連絡先)へ

〒041-0061 函館市海岸町9-18 電話 0138-84-5396